

第 2 回 いわき市病院事業経営評価委員会 議事要旨

I 開催日時：平成 21 年 11 月 23 日（月） 13:00～14:30

II 開催場所：市役所本庁舎 第 3 会議室

III 出席者

○評価委員会（順不同、敬称略）

役 職 等	氏 名	出欠
いわき市医師会長	木田 光一	出席
いわき市病院協議会長	松村 耕三	出席
福島県看護協会いわき支部長	薄井 公子	出席
いわき市保健所長	新家 利一	出席
日本大学商学部教授	高橋 淑郎	出席
公認会計士	樋口 幸一	出席
いわき市商工会議所女性会長	吉田 恭子	出席
いわき市社会福祉協議会常務理事	強口 暢子	出席

○事務局出席者

役 職 等	氏 名
病院局長	本間 静夫
病院局次長兼本院経営管理部長	氏家 廣仲
本院長	樋渡 信夫
分院長兼本院副院長	江尻 友三
参事兼分院事務管理室長	根本 茂信
本院経営企画課長	渡部 登
病院局統括主幹兼経営企画課長補佐	飯尾 仁
主幹兼病院再編推進室長	渡邊伸一郎
病院再編推進室総括主査	小島 誠一
病院再編推進室事務主任	浜井 裕介

IV 次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議事
 - (1) 平成 20 年度の決算状況について
 - (2) 市立病院改革プランの主な取組みについて
 - (3) その他
- 4 閉会

V 主な内容

○ 議事について

(1) 平成 20 年度の決算状況について

<質疑>

委員 A：収入、支出ともに減少傾向にある。この傾向がこのまま続くのであれば好転は望めないのではないかと。医師数の減少に歯止めが掛からないのであれば問題である。

事務局：医師の確保については、全力で取り組んでいる。収益確保についても共立病院における 7：1 看護体制の導入や地域医療支援病院の認定取得など、単価向上策に努めている。

委員 A：神経内科の医師が不在となって 3 年経つが、これまでどのような策を講じてきたか。また、腎臓膠原病科の医師が退職したが、引きとめを行ったのか。

事務局：神経内科については、東北大、福島県立医大、筑波大の各医局に働きかけを行ってきたが、確保に至っていないのが現状である。腎臓膠原病科の医師についても十分な引きとめは行ったと考えている。

委員 B：売り上げは上がっても利益は上がらないという構造に病院は陥っている。急性期・高度先進医療に特化するほど赤字になる。利益を出る部分と市立病院が担うべき部分に分けてバランスをとる必要がある。

委員 C：バランスをどうとるかで、市民への影響も出る。市立病院が担わなければならない部分というのも重要。

委員 A：地域で完結できずに他地域にお願いしないといけないような患者も増えてきているのではないかと。地域医療の確保のため、赤字をどこまで容認できるか。

委員C：病院事業の赤字を許容できるのかという議論も大事。

委員A：共立病院の救命救急センターから医療圏外に紹介される患者さんは50名くらいいるのではないかと。

事務局：現在は少ない。以前は心臓血管外科で20～30例あったが、今年の夏以降では1例となっている。

委員C：共立病院が地域における役割を果たしているということ。次回、問題を整理して、また議論したい。

(2) 市立病院改革プランの主な取組みについて

<質疑>

委員A：看護学院の入学者数が定数よりも少ない年度があるがなぜか。

事務局：辞退者が出ているためである。平成19年度より推薦入試を実施し、学生の確保に向けた努力をしている。

委員C：高等看護学校は全国的に定員割れの傾向にある。

委員B：現状では、赤字であっても定員を割っても看護師を確保するため看護学院はやらなければならない。

委員D：助産師の専門性を活かして院内助産所をやる予定はあるのか。正常分娩は助産師で対応できる。

事務局：正常分娩であっても現実的には医師が待機していなければならない。限られた医師数でやっている。現状では難しい。

委員B：助産師だけで分娩を行うためには、産科医がすぐ対応できるような体制をとるために、医療機関との提携が必要。いま病院で産科医がいるのは共立病院だけ。

委員C：市立病院には、改革プランの目標である安全・安心の医療提供と安定した経営基盤の確立の実現を目指して、努力することを切に希望する。次回の委員会では、今年度の取組み結果の取りまとめをしていきたいと考えている。事務局には、本日の意見も踏まえた資料の作成をお願いしたい。